

放送番組審議会議事録

- 1 開催年月日 平成 22 年 5 月 21 日(木)19:30～21:00
- 2 開催場所 奄美市名瀬金久町 4 番 3 号 あまみエフエム階下 ASIVIにて
- 3 出席委員 委員総数 8 名 出席委員数 7 名 欠席委員数 1 名

出席委員の氏名

水間 忠秀/濱田 百合子/宇都宮 英之/久岡 久乃/築地 理昇/寿 浩義/再田 美紀

欠席委員の氏名

北之園 千春

放送事業者側出席者名

麓憲吾/丸田泰史/中原優子/小野健太郎/鈴木真実/元井庸介/米澤恵美子/
盛島拓史/宮田愛

4 議題

- (1) 3周年記念番組&イベント開催のご報告
- (2) 番組内容の審議(『島口 NEWS シマユム TIME』について)
- (3) 次回の審議議題について

5 審議内容

- (1) 3周年記念番組&イベント開催のご報告
- (2) 番組内容の審議(『島口 NEWS シマユム TIME』について)
- (3) 次回の審議議題について

放送局 丸田より、出席議員数7名、欠席委員数1名、宇都宮委員が後ほど参加する旨連絡された。

水間議長

それでは、放送局のほうから、3周年記念番組についてのご報告をお願いします。

-放送局 丸田

先日 5 月 1 日もち、あまみエフエムは開局 3 周年を迎えることができました。これもサポーター、リスナー、そして審議委員の皆様のおかげです、ありがとうございます。

○2010 年 5 月 1 日(土)

特番として、午後 12 時から 7 時まで生番組で特別放送を行いました。ボランティアパーソナリティーの皆さんに活躍していただいたり、また、住用、笠利の中継局の同時オープンということで、ディ号として中継車両を走らせ、住用から笠利までの各地でインタビューするなど、様々なリスナーに触れ合うことができました。住用・笠利の 2 局の中継局が増設されたことで、聴取範囲の広がったことを実感していただきたいとの目的もありました。生番組では、普段ではセッティングできないボランティアパーソナリティー同士の組み合わせも実現し、いろいろなお話を聞けました。

○2010年5月2日(日)

長浜にある文化センター前、一万人広場にて記念イベントを行いました。応募によるイベント参加者が舞台上で新民謡やシマ唄、大島高校の新体操部員による演舞の披露などがされました。大声コンテストやクイズなどその場で参加できるコーナーも行い、ラジオ放送だけでは通常感じるできないことを体感し、楽しんでいただけたのではないかと考えています。

一放送局 麓

○2010年5月16日(日)

あまみエフエムのスポンサーである全労災さんのホールをお借りし、3周年記念ということで、唄イベント「夜ネヤ、島ンチュ、リスベクチュッ！！」を開催し、また、大物産展「シマムンマンディ」を同時開催しました。来場者は900名を超え、大盛況となりました。物産ブースは島で頑張っている30代の店主らが出店、また音楽イベントには島内外で活躍するアーティスト・唄者に加えて、浦上青年団、商工水産ズなども参加しました。今回は、できる限り地元の出演者やスタッフを連れて行き、地元・奄美で残ってがんばっているというメッセージを伝えたい思いから、総勢80名の出演者およびスタッフとなりました。今後、サイマル放送などを利用し、島外にいる島出身者にもラジオ放送を届けられるようにしたいこともあり、あまみエフエムの良いプロモーションにもなったのではないかと考えています。

水間議長

以上に関しては、後でまとめて質問・ご意見などいただければと思います。早速、『島口 NEWS シマユム TIME』について審議を始めたいと思います。まずは、皆さんからご意見をいただきたいと思います。

一放送局 中原

『島口 NEWS シマユム TIME』とは、昨年10月からスタートしたコーナーであり、ラジオにシマグチを取り入れたということ、英会話のOVAもあります。さらにシマグチのプロの皆さんにお話していただきたいということで企画したものです。「シマユムタ伝える会」の皆さんにご協力いただいて作っているもので、収録放送です。一週間にあった出来事を地元紙2誌からピックアップし、情報を要約してシマグチに訳してもらい、前半でそのニュースを紹介し、後半でその内容についてシマグチでコメントする番組で、とくに訳を入れることもなく、シマグチオンリーで届けたいという趣旨のもと放送しているものです。

寿委員

シマグチオンリーでやっているのは、自分たちぐらいの年代までの方は楽しんでいると思います。しかし、若い世代には楽しめているのかが気になります。英会話のOVAには訳がついており、観光客からも面白いという話を聞くが、方言だけというのは、どうなのでしょう。ニュースの部分は大体雰囲気がわかると思うのですが、コメントについては、若い世代はまったくわからないのではないのでしょうか。ただ、年配の方には、島々の間の言葉の違いもわかり、楽しんで聞いてもらえてるのではないのでしょうか。

築地委員

私も初めは寿委員の言われたようなことを感じました。しかし、よく聞いてよく考えると、この番組に関して万人向けである必要はないし、たとえばNHKの英会話講座でも、基礎から上級までの会話のコースがあり、それぞれにリスナーがいることを考えても、これを上級者向けにとらえ、逆に初級者向けの番組があってもいいのでは

ないかと思いました。

浜田副議長

私は島の人間ではないので、この番組はかなり上級編だと思っています。わかるところもあるけれど、盛り上がってみなで笑っているところで一緒に笑えないことが、島に来て 30 年近いですが、まだよくあります。また、年配の人などに話す尊敬語と仲間内で話す言葉の違い、島々の間での言葉の違いなどは押さえておくべき、基礎的なポイントだと思いますので、何かコメントや解説がほしいと思います。「今日はこんな言葉ができましたね」といった単語解説などもあってもいいと思います。また臨場感があってシマグチ流しっぱなしというのも記録のひとつとしていいのですが、コーナーの企画の目的として、「シマグチを活用できるコーナーを設けたい」との文言があることを思うと、聞いている人が(聞くのはなんとかなっても)、「活用」していけるためにはもう少し工夫があったほうがいいと思います。また、ラジオで放送する声として、(このようなことを言っているのかわからないのですが)向き、不向きがあると思います。島尾シンゾウさんのお母さんのミホさんの歌うように美しいシマグチや年配の方特有のまろやかさの出た声、言葉の質感の美しさを実感したことがあり、そういった、語り部として耳に心地よい語り、あるいは物語でもいいですが、そういったことをして下さる方がいるといいなと思います。また、嘉原カオリ先生のようなまろやかな言葉でしゃべれる方の言葉を聞きたいと思いました。

-放送局 中原

あと、朝の生ワイド番組『スカンマーワイド』で、毎週月曜日に「読みむんマンディ！」というコーナーがあり、毎曜日趣向を変えて読み物をしています。隈元博子さんという、もと幼稚園の先生なのですが、語り部さんに、はじめ普通の島の昔話をしてもらい、その後シマグチバージョンで読んでもらったり、という番組をしています。『島口 NEWS シマユム TIME』と一緒に流すことは時間的に無理なのですが、今のところ、そのコーナーで静かにシマグチを語るという形で、語り部隈元博子さんを紹介させていただいています。

浜田副議長

そういったものをこのコーナーでもちょっとあるといいなと。ちょっと今回の CD になかったもので。

宇都宮委員

今回の『島口 NEWS シマユム TIME』ですか、すぐに CD を聞かせてもらい、また、いつも聞いているのですが、おもしろい番組であると思いますし、重要な文化の記録としてよい番組だという意見をよく聞きます。ただし、上級編、初級編という話がありましたが、うちの近所でもよく上級編の会話が聞きかたっており、その大半は意味がわからないため、聞き流すことになってしまいます。今回の番組もそれと同じようなことが起こります。わからなさすぎて会話が BGM になってしまい、聞き流しかねないのです。その対極にあるのが、英会話の OVA であり、シマグチではこういう、英語ではこういうという解説に納得し、うなづきながら聞けるのですが、『島口 NEWS シマユム TIME』は本当に BGM になって流れて行ってしまい、参加型ではないなと思いを強く感じます。そこで、重要なポイントのところだけでも解説・ワンポイントアドバイス、そのようなものがちょこっとあれば、参加型に近づくのにな、という印象を受けたことがあります。

久岡委員

今皆さんのお話を伺って、聞く人によってこんなに印象が違うのかと思いました。私はすごくおもしろく聞かせてもらっていて、内容も頭に入ってきて、自分もそこに入りたいと思ったのがひとつ、方言が島によって違うと

思ったのがひとつです。ただ、「一週間のニュースをシマグチで紹介します」というのが、一週間のひととおりのニュースを紐解くという感じで振り返るのではなく、あるニュースをピックアップしているということで、私の想像していたのと違うなと思いました。また、記事を方言で読むところが、無理やりシマグチに「訳しました」という感じがでて、シマグチとしてはやや堅めに聞こえるため、シマグチではなく共通語にしてしまい、シマグチと分けるか、もしくはこてこてのシマグチ丸出しでもっと口語的にしてしまうかするといったなと思いました。あと、この番組は、濃いなあと。私はそれが楽しめたのですが、人によってはこれを10分聞き続けるのは難しいのではと感じました。個人的には楽しかったです。

再田委員

私も何回か聞いて感じたことは、英会話のヒアリングでもそうですが、拾える音と拾えない音があり、拾える音は拾って理解するのですが、拾えない音はただ流れていってしまいます。同じシマグチでも世代間で使い方が変わるし、また、この番組は違う島の人たちがいらっしやるので、言葉の使い方、発音も違います。拾える音と、拾えない音がワーストとくと、ノイズのようになってしまい、頭が拾える音を拾って理解しようとするものから、理解しようとしてもできなくて、消化不良のような状態になり、不快感のようなものを感じてしまうこともあります。全部聞けたら楽しいのに、と思って、どうしたらいいかと考えたときに提案として、世代の違う人を会話に混ぜ、質問しながらの会話にするなどすれば、わからない箇所などの共感をしながら入り込めると思うので、そのような世代間の橋渡しになるような工夫がほしいです。

集落が同じ場合はある程度理解できても、集落が違くとコミュニケーションが成り立たないように感じてしまいます。英語とスペイン語とポルトガル語がいつに会話しているような感じでしょうか。集落別や世代別でそれぞれ理解しながら確認しながら進めていければ、伝統の継承としては、浸透しやすいのかなと思いました。英語でもそうですが、言葉は聞き取りがあって、その後自分で話して、敬語なども人に訂正されたりしながら身につけていくものだと思うので、話せない世代が口に出してしゃべってみる、というきっかけになるような番組になればいいのではないかと思います。

水間議長

前も少し言いましたが、基本的に、この番組はありがたい良い番組だなーと思います。よくラジオなどで流れるものは、島唄でもそうですが、昔の物語のなどのシマグチなどしかあまり接する機会がないからです。新聞記事をシマグチで読んでくれることで、今起こっている出来事をシマグチで聞けて、このことを、シマグチではこう表現するんだーと思ったりできるのがうれしかったです。今回のCDの中に正月特別番組もあったので思ったのですが、普段の番組は、新聞記事を知っているので、「これからこういうことを話さず」と頭でわかって聞くので聞きやすいのですが、正月の番組になると今からなにを話すのか途端にわからなくなります。話している内容がまったくわからないというのは労力を費やすことですが、会話の掛け合いで楽しさが伝わる部分もあるので、それを切ってしまうとわかっている人が楽しくなくなる可能性があるため、この番組はこのままでいいと思います。

ただ、収録番組ならば、話す内容を、再放送で解説する、ホームページで解説する、などシマグチ初心者にはもう少し説明があるといいと思います。聞きなれない人は、はじめにどんなニュースについて話しますといった補助的なものがあっていいと思います。また、聞いていてやはり地域の差は感じました。違う島の人同士を混ぜるのは少し乱暴な気もしますが、今の時代ならいいのかもしれない。その代わりに、地域間で違う単語の解説など、簡単な説明がほしいと思います。敬語と仲間うちの言葉の差を学ぶため、子供などを会話に混ぜて質問形式の教室みたいな番組があってもいいのではないのでしょうか。視聴者から「これはなんていうの？」というような質問を受けて、「今日の質問」などのコーナーを設けて、1回につき1～2問についての解説するのもいいと思います。

これから、この番組から、初級者用、上級者用など、いくつかの番組に派生してもいいのではないのでしょうか？

—放送局 中原 大変勉強になりました、ありがとうございます。

寿委員

この番組自体はこれでいいと思います。解説を入れるなら全部を訳さなくても、はじめにちょこっと共通語で解説をいれるなどして頭にいれるなどすればいいと思います。この番組自体はこのままにして、敬語やそのほかのことはどこかほかのコーナーなどを作って子供たちに教えるようなことをすればいいと思う。

水間議長

新規に番組を作るよりは、番組を分解して、再放送などで解説するなどすればいいと思います。今日聞いてわからなかった人は、再放送もあるのでそちらで勉強してくださいというようなことで。

—放送局 中原 そうすれば再放送も聞いてくれるかもしれませんね。

水間議長

それを間にいれてもう一度最初のを再放送するとか。ラジオ講座になってしまいますが。

—放送局 中原 この番組は、(少し傲慢な言い方かもしれませんが)これをわからないならわかるようにがんばってくださいというような裏の趣旨もあります。わかりやすい番組としては英会話のOVAもありますし、これは確実に上級者編ということで。

水間議長

ホームページでちょこっと今日の話の内容だけでも解説してくれれば。

放送局

何かちょっと聞いてくれる人が最後まで聞いてくれるような工夫をしていきたいと思います。

久岡委員

私たちが日常的にこれだけシマグチの飛び交う会話に触れる機会はあまりありませんね。私たちが近づけば年配の方は標準語に近づけてくれますから。

—放送局 中原

これだけの濃い会話を聞く機会はあまりないですね。また違う島の方々が混ざっていることもありますので、非常に貴重な空間になっています。

再田委員

違う島の人たちがわざわざ収録のためにこられるのですか？

—放送局 中原

いえ、シマユムタ伝える会の方々なので、いろいろな島の方がおられるのですが、皆さん出身が違うシマでもこちらに住んでおられます。

いろんな方が入ってくださったほうがいいですとお伝えしているので、いろいろな方が混ざってくださっています。その上で、打ち合わせの中で、シマの間で違う言葉などが出た場合はそれをわざと出すようお願いするようにしています。皆さんは何せ経験があるので多少違って大体理解されてしまうところがあるのですが。

水間議長

今ニュースの出来事だけシマグチで言っていますが、それを「〇〇県知事はこういった」みたいな人の発言まで言ってもらったらどうでしょうか？

放送局 中原

ニュースの出来事を訳すのは皆さんにも大変なことであり、記事を意識したものを訳していただいているのですが、それでも皆さんきちんと読み原稿をつくってこられているのでそれは難しいと思います。その後のフリートークは皆さん楽なのですが、先ほどの水間さんの話でもありましたが、ニュースの記事の部分はシマユムタの会の皆さんとリスナーの皆さんの共通点でもあるのですね。身近な出来事を聞くことで、まったくわからないところからでなく共通点から探ればとのヒントにはしているのですが、これからもう少し工夫します。

築地委員

逆に私は正月の話はとても楽しく聞けました。昔豚を丸々つぶした話や、鯨が湾に紛れ込んできた話などとかぶって、島の昔の生活が少しだけ見えるような気がして。

浜田副議長

研究者には聞ききれない民間の人たちの文化の継承だと思います。マツさんのおばあさん、お母さんの話だと下手したら江戸時代までさかのぼってしまうような話もありますよね。

再田委員

とりあえず、この番組自体はすばらしいと思うので、私たち初心者がもっと活用できるような番組をつくっていただけたらと思います。恥ずかしくてもしゃべってみようよ、っていうところまでもっていけたらいいと思います。これはこれであっていいと思うので、これからまた違う番組やコーナーを作っていくのでいいのではないのでしょうか。

そのほか、出た提案について

- ・ シマユムタ検定
- ・ 感嘆詞についての番組
- ・ 番外編として島外の方言とのシマグチの対決
- ・ よく使う挨拶やお礼、相槌などの簡単で重要な文の解説のコーナー

次回の審議議題について、朝・昼・夜の生ワイド内における天気予報と空の便、海の便の内容についてである旨、放送局より説明があった。

6 審議機関の答申又は改善意見に対してとった措置及びその年月日

次回審議会までに改善に努める

7 審議機関の答申又は意見の概要を公表した場合におけるその公表の内容、方法及び年月日

- ① 自社放送:平成 22 年 5 月 22 日(土曜日)17:30～「ゆふいニング・アワー」番組内で放送
- ② 書面の備置き:平成 22 年 5 月 22 日(土曜日)から、当該事項を記載した書面(議事録)を当法人事務局へ備置き、聴取者の閲覧希望に対応
- ③ インターネット:平成 22 年 5 月 22 日(土曜日)より当法人インターネットのホームページに転載

8 その他の参考事項 なし